

我孫子から発信 平和への祈り

戦後六十五周年記念誌「我孫子市が発行



平和祈念式典と書道展と
昭和60年に平和都市宣言をした安孫子市では、毎年8月に手賀沼公園にある平和祈念碑の前で平和祈念式典を開く。広島に駐屯し、原爆の残虐さを体験した同市の原爆被爆者の会の山田清一会長も毎年挨拶に立つ。
その山田氏が東葛地区の書道の重鎮であることを知って平和式典と書道展の両方でお付き合ひするようになった。この記念誌も山田さんから頂戴した。
編集した平和事業推進平和会議に連絡し、柏市の中央図書館でも閲覧できるように願った。

○グラマンやp51を邀撃（ようげき）するため、タコツボを掘り、その中心に五寸六角の柱を据える。銃の台座である。そこに航空機用の20ミリ機関砲や8ミリの旋回機関銃を置く。それでP51を迎え撃つ。敵機は直ちに旋回反撃してくる。そのとき、タコツボの底に這いつくばる。それで戦死者が出た。浜松飛行隊の話だという。

○9ヶ月の胎児のとき長崎で被曝した。中学生まで住んでいた長崎に職場の仲間と行ったとき、「長崎原爆資料館」に入ることができなかった。いつか長崎までの長旅に耐えられたなら、資料館に行き、私の命に刻み込まれた恐怖と向い合いたい。

それぞれの戦争体験から得た平和への願いを残す

A4版で300ページをこえる『平和への祈り』は、星野順一郎市長の「不戦の誓い」を筆頭に、平和祈念文集（一般の部、小学生・中学生の部）となっている。上掲のタコツボと長崎原爆資料館は市民から寄せられた47の戦争体験からである。短歌・俳句の部から三首。

○息絶えし弟を背に茶毘を待つ少年ありき被爆長崎

○壕の上わが身おほひて座りたる爆風耐へし母を思へり

○われ抱へ防空壕に走り行く母の恐き目いまに忘れず

市内にある6中学校から1名ずつの代表が広島・長崎市の平和祈念式典に参加する。その体験文集もまとめられている。「原爆資料館の映像を含む資料は想像を絶するものでした。自分は何も知らないことに気づきました」と書く。学校で報告会を開くという。

末広クラブ・逆井漫歩160 平成23年6月



↑ 我孫子市では、「平和への祈り～子どもたちの太平洋戦争～」という小冊子を、小学校の5年生に配布している。空襲、学童疎開、特攻隊、沖縄戦、原子爆弾など項目ごとに写真入りで解説している。